

あさの交通安全
指導も元気よく！
横断者の安全に
目を光らせます！



老人クラブで はつらつ人生

平生町
堅ヶ浜老人クラブ
「百寿会」

地域のお手伝いにどんどん参加。
元気な老人クラブ活動でイキイキ！

終戦の傷が癒えきらない昭和28年、復員してきた男性や護国婦人会の会員だった女性らが集まり「荒廃した故郷をなんとか建て直したい」という思いで結成されたのが『堅ヶ浜老人クラブ』です。現会長長の西川直道さん曰く「みんな百歳まで頑張ろう」ということのでつけたんでしょね」という名前が『百寿会』。

会員は徐々に増えていき、昭和52年には人数が多くなりすぎたことから地区東部が独立、『東百寿会』という名で活動を開始しました。現在では



気軽に声をかけ、
通学生との
コミュニケーションも
取っています。



私たちの交通誘導なども加わっています。

例えば6月なら、登校時間帯に横断歩道に立つ交通安全指導、神社の清掃、ジャンボタニシの駆除、ヒマワリの種まき、公民館活動の会場設営など。7月に入ると、夏休みのラジオ体操に集まる子どもたちの交通誘導なども加わっています。

「どんな活動をしてるんですか？」という問いに、返ってきたのは「地域のためになることなら何でもやりますよ」という答え。活動日誌を見せてもらうと、なるほど2日に1回以上のペースで何らかの活動を行っています。

百寿会が37名、東百寿会は32名で活動を行っています。
今回は堅ヶ浜地区西部の人たちで組織されている『百寿会』を取材させていただきました。
「地域の活動ならなんでも出かけて行ってお手伝いしますよ」

運営されますが、百寿会も運

11月に行われる堅ヶ浜ふるさとまつりは地区最大の祭りです。これも大堅会が主体で

その団体のひとつが、主に祭りを取り仕切る「大堅会」です。
コミュニティセンターの駐車場で行う盆踊りは、小規模ながらも帰省した子どもさんやお孫さんらも楽しみにしている恒例行事です。運営の主体は大堅会ですが、やぐらの設営や進行には百寿会のメンバーが加わっています。

こうした活動の中で目につくのが、他の団体が主体で行う作業にも積極的に加わっていることです。「堅ヶ浜にはたくさんさんの団体があります。老人クラブのメンバーはそれらの団体にも入っているからですよ」と西川さんは言います。
お祭りもおまかせ。
出し物の準備も万端！



盆踊りに参加した百寿会メンバー



老人クラブで はつらつ人生

平生町
堅ヶ浜老人クラブ
「百寿会」



祭りのぼり立て



銭太鼓の練習風景（中央は先生）

営から出し物まで、大勢のメンバーが参加しています。

音楽に合わせて2本の棒で

地面をたたき、リズムを取る銭太鼓グループ「寛永会」。ふるさとまつりをはじめ様々な

イベントに出かけていきます。5人のうちの3人が百寿会の

メンバーです。「呼ばれればどこにでも行きます。余田(柳

井市)のお祭りにはよく行っていたんですよ。このあたりは

古くから余田との関係が深い地区ですからね」。今では行

政区こそ違いますが、農地が接していることなどから、古

くから様々な行事を共同で行ってきた地区だということです。

故里の美観保護にもひと 役買っています。

地元の里山との共存を目的に活動している「里山を守る会」にも加わっています。活動日誌にもあったヒマワリの種植えは里山の美観活動の一つで

す。種を植えた後もときどき草取りに行き、周囲の美観保護に務めています。

山には昔ながらの炭焼き窯があります。里山を守る会では、竹炭づくりも行っています。

近年問題になっている竹の繁殖を抑える目的もあり、

会員の都合がつく時期を見計らって炭を焼くそうです。百

寿会のメンバーも、竹の伐り出しなどを手伝っています。

できた竹炭は、ふるさとまつりで販売しています。

年齢の枠をこえた交流。 地域ぐるみのお付き合い。

百寿会の活動のもう一つの特徴は、三世代交流の要素が強いということです。

交通安全活動は交通弱者が対象ということですが、通学時間帯を中心に行っています。ラジオ体操に通う子どもたち



三世代交流の一環として「堅ヶ浜ふるさとまつり」では、皆でダンスや合唱を行いました



百寿会メンバーからなる「堅ヶ浜舞踊同好会」の発表も



神社にしめ縄を取り付け



神社のしめ縄づくり

子どもたちを対象に、昔ながらの臼と杵で餅つき体験を行っています。地区ぐるみで子どもたちを見守る古きよき風習を、楽しみながら実践しているという印象です。

「老人クラブは仕事をやめた人が多いものですから、余った時間を地区のために使えるんですよ。まずは元気に挨拶をすることですよ。そうすれば子どもたちも応えてくれますよ」と話す西川さん。子どもたちからも元気をもらっているようです。

このほか、神社のしめ縄や正月飾りづくり、「ほぼろ」づくりといったワラ加工、溝の清掃、独居老人への声かけなど、百寿会の活動は枚挙にいとまがありません。

**メンバーが輝けば、
地区も活気があふれる。**

活動内容を見て見ると、お年寄りの知恵や経験を活かし

たものばかりではなく、中には体力が必要なものもあります。それができるのは、ちょっとしたカラクリがあるからです。実は堅ヶ浜老人クラブは、入会のための年齢制限がないのです。

「私はJRに勤めていたんですが、52歳で退職した年に入会しました。72歳のときに会長になりましたが、それでも20年のキャリアがあったんですよ」という西川さん。

一般的な老人クラブは「65歳以上」といった年齢制限がありますし、仮に年齢制限がなくても若い人は入りたがりません。ところが百寿会には西川さんに限らず、60歳以下で入会している人が数人います。これは、もともと地元にある青壮年グループで活動している人が多く、そこで老人クラブのメンバーと一緒に活動しているため、入会することに抵抗がないのかもしれない。

「仕事をリタイヤしたら時間が余るでしょ。それを地区のためにちょっと役立ててくださいよ、と呼びかけています。最近では定年前にやめる人が多いので、そんな人にどんな入ってもらって、元気のいい老人クラブにしていきたいですね」と話す西川さんが、一番元気がいいのかも知れません。

INFORMATION

生きがいづくり活動・ボランティア活動・地域福祉活動に、あなたも参加しませんか？興味のある方は、あなたがお住まいの市町にある社会福祉協議会・老人クラブ連合会にお問い合わせください。